

長谷川ひろ子監督作品

いきたひ 死

— 看取り・命のバトン —

人生の幕は 歴史を刻んだ家で閉じたい
そう願いつつ

いつの間にか病院で生まれ
病院で死ぬのが 当たり前になった

人生の始まりと終わり

最も大事なシーンが

暮らしの中から 切り取られてしまった

略歴:

秋田県に生まれる。地方局の
アナウンサーを経て結婚。4児の母と
なる。2009年夫(当時47才)が癌で
他界。家族とともに自宅で夫を看取っ
た記録を映像に残す。

「いきたひ」の上映会はこれまで全国
で280回以上、NHK Eテレ「あしたも
晴れ! 人生レシピ」にも出演した。



私がこの映画に出会ったのは、2017年の秋です。死をテーマにした映画なのに、見終わった後、不思議と悲愴感はなく、とても温かな雰囲気を感じたのです。そこで、この映画をより多くの方に観ていただきたいと思い、この度、弘前で自主上映会を開催することにいたしました。死は誰にでも平等に訪れます。だからこそ、この映画を通して、「あなたはどのように生きていますか?」「大切な方とどう過ごしていきたいですか?」と、今の自分に問いかけてほしい。そして、大切な方を想い・感じる時間を、皆様と共有できましたら幸いです。
グリーンケアアドバイザー 佐々木清美

8月11日(土)13:30~16:30 (開場 13時~)

上映(56分)後、長谷川ひろ子監督の講演会+サイン会があります。

場所: 弘前市駅前 ヒロロ4階 市民交流ホール

参加費: 2,000円 定員: 200名 (定員になり次第締め切ります)

裏面に記載されている方法にて、事前参加申込みをお願いします。

*尚、お席は当日先着順とさせていただきます。

主催: いきたひ上映を広める会

”看取り直し”が出来る究極のヒーリングムービー

終末期の在宅医療や在宅介護の関係者に注目されているドキュメンタリー映画「いきたひ」。

47歳で他界した夫を4人の子どもたちと共に自宅で看取った長谷川ひろ子さんは、夫の生き様・死に様をホームビデオで撮っていた。その後「死とは胎内に戻る」という死生観に出会い、「死」は決してタブー視するものではなく、「生の肯定」に導くための尊い体験につながることを実感し、そのことを多くの人に伝えたいと、まったくの素人ながら映画制作へ取り組む。

企画から構成、脚本、取材インタビュー、ナレーション、テーマ音楽の作詞・作曲、演奏、歌まで自分自身でやりぬき、ついに2015年に映画は完成した。
(いきたひ ホームページ <http://ikitahi.com/index.html> より)

～ 看取り・命のバトン ～

【申し込み方法】 申し込みは、1～3のいずれかの方法でお願いします。講演会終了後には、長谷川監督を囲んでの交流会もありますので、参加を希望する方は併せてお申込みください。

1. 申し込みフォーム : <https://goo.gl/forms/u7Zgvv72BW5gj5er2>

※Facebook「ひろさきナラティブ.net」のページでも案内しています。



2. FAX 送信先 : 017-771-4353

FAX 申し込み 記入用紙			
申込み	氏名	所属	連絡先
<input type="checkbox"/> 上映会・講演会 <input type="checkbox"/> 交流会			
<input type="checkbox"/> 上映会・講演会 <input type="checkbox"/> 交流会			
<input type="checkbox"/> 上映会・講演会 <input type="checkbox"/> 交流会			
<input type="checkbox"/> 上映会・講演会 <input type="checkbox"/> 交流会			

※上記情報は、上映会・講演会以外の目的では使用しません。

3. メール : hirosakinarrative@gmail.com

メールの本文に①氏名 ②所属 ③連絡先 ④上映会・交流会の参加・不参加 をご記入の上、送信ください。

【長谷川監督を囲む会 (交流会)】

日時 : 8月11日(土) 17:30~20:00 場所 : ヒロロ近くの飲食店 (当日お知らせします)
参加費 : 4,000円

【お問い合わせ先】 いきたひ上映を広める会 hirosakinarrative@gmail.com

(ひろさきナラティブ.net 代表 木村匡宏 / グリーフケアアドバイザー 佐々木清美)